

厳寒の旭川で水耕による周年生産を30年やっています！

今月は北海道上川郡の東神楽温室園芸組合さんを訪問させていただきました。昭和49年(1974)農事組合法人として設立、昭和51年(1976)みつばの周年栽培を目指し水耕への取り組みを開始されて以来、厳寒の北海道の地で水耕に取り組んで来られました。その後幾度かの増設を経て現在では大雪山系の山々に抱かれるようにガラス温室12棟、硬質フィルム温室3棟、ビニールハウス6棟の5,200坪の施設が並んでいます。

生産品目はみつば3,300坪、ミニトマト1,300坪、クレソン220坪、かいわれだいこん220坪と、みつばを主体と

した経営です。生産品は全量をJA東神楽を通じての販売、ほとんどが道内消費されてるとのこと。また昨今問題となっている作る側と売る側の連携も、うちではうまくいっていると組合長河野和浩氏のお話でした。

「できーくん」との出会いは3年前名古屋方面視察でM式訪れた際、案内してもらった農家の事例を見た時だったそうですが、できの揃いが良かったので驚かれ直ちに導入を決断されました。その後順次全施設に導入され、北の地でも「できーくん」は頑張っておりまして。安定して作れるし、安心して任せられるのがいい！と

の評価をいただきました。

昨年度30周年を迎えられるなど順調な経営ぶりは道内における施設園芸の先進的モデルとして高い評価を集めておられます。暖房期間が長い土地柄ですが平成5年(1993)には廃タイヤ専用ポイラを設置するなどコストダウン努力、下葉取りしてウレタンを付き1kg入りという通常の荷姿だけでなく、大きめに作りウレタンを切り落としただけでの2kg入り「切りみつば」での出荷形態導入など積極的な経営姿勢と工夫は随所に感じることができ、さすがというか納得でした。

(企画室 小倉東一)



左から河野組合長、吉尾会長、吉井さん(JA東神楽)



できーくんとみつば栽培風景



クレソン栽培風景



切りみつば出荷姿



かいわれ